

着衣泳指導（6年生）

本校では、6年生を対象に着衣泳指導を実施しました。今回の指導では、中津市内の小・中学校や地域で水難事故防止のための活動を行っている「中津着衣会」の皆様にご協力いただきました。現役の消防隊員の方々を中心に活動されている団体で、子どもたちに命を守るための大切な学習をしてくださいました。

水による事故で亡くなる方は、突然の事故による死亡者数の約20%を占めるそうです。水の事故を防ぐために、「大人は子どもから目を離さないこと（大人がいない状態での水遊びは危険）」「水辺で活動するときにはライフジャケットを着用すること」「雨が激しいときには河川や水路に近づかないこと」が大切だと学びました。



また、身近な水難事故として、お風呂や浴槽での事故にも注意が必要であることを学びました。実技では、水に落ちてしまった場合には、無理に泳ごうとせず、力を抜いて「浮いて待つ」ことの大切さを学習しました。ペットボトルなどの浮くものがあれば、それを利用することで浮き続けることができることも体験しました。





さらに、溺れている人を見つけた場合には、自分で助けに行こうとするのではなく、まずは119番通報をしたり、大きな声で助けを呼んだりすることが大切であることも教えていただきました。毎年、溺れている人を助けようとした人が二次被害に遭うケースもあるそうです。周囲に浮くものがあれば、ペットボトルやカバン、ランドセル、お菓子の袋などを投げて渡すことも有効な方法であることを学びました。子どもたちは、実際に着衣のまま水に入ること、服を着た状態で泳ぐことの難しさや、「浮いて待つ」ことの重要性を実感していました。これから夏休みを迎えるにあたり、自分の命を守るための行動について改めて考える貴重な機会となりました。

中津着衣泳会の皆様、ありがとうございました。